

第20回白神山地世界遺産地域科学委員会資料に関する御質問への回答

項目	資料	質問	回答	回答者
1) 保安全管理について	資料1-1	多くの主体により、環境教育的イベントが開催されているのを歓迎します。効果はどうか。参加者のリピート率や参加アンケートの結果等何かわかりましたら、教えてください。(蒔田委員)	(東北森林管理局) 青森県側では鱒ヶ沢町内のこども園や小学校、秋田県側では藤里幼稚園と二ツ井高校への森林教室等を実施しており、これらは要請に基づき毎年実施しているものです。 また、一般の方を対象としている森林ふれあい推進事業について、参加者の約3人に1人の方はリピーターであるところでは。 (青森県自然保護課) 白神山地ビジターセンターでは、昨年度、「新緑の白神トレッキング」等、10の自然体験事業を開催しました。参加者のリピート率については正確な数値は把握していないものの、リピーターの割合が多いと、センター担当者から伺っております。なお、アンケートは、開催希望地や職員の対応等について記載いただく内容としており、感想を記入する欄は設けておりませんが、自然体験事業の参加者は200名にのぼり、好評を得ていると考えております。 (能代市) 能代市で毎年一般市民向けに開催している環境大学講座では、令和元年度に白神山地世界遺産地域周辺部として十二湖・三十釜での自然観察を実施しました。参加者は18名で、半数の方がリピーターでした。また、実施後のアンケートでは「次回の環境大学講座に参加したいと思うか」という質問に対し、全員の方からまた参加したいとの回答をいただきました。 (藤里町) 企画により変動があるが、これまで定番だった世界遺産概論のような内容から、鳥、土壌、歴史など、嗜好を細かくしぼった方が、参加者の反応が良い傾向があります。かつ予算的制約もあり、どう情報を求めている方に伝えていけるか試行錯誤しています。	構成機関各位
	資料1-1-2番号2	東北森林管理局の巡視員会議(P.11)には、他の機関の巡視員も参加されているのでしょうか。(田中委員)	環境省や青森県の巡視員の方も参加しています。	東北森林管理局
	資料1-1-2 資料2-3	P11及びp95では森林管理局によるクマゲラ調査は行われていないとしていますが、令和2年1月発刊(部外秘)の「白神山地周辺のクマゲラ生息実態調査報告」がありますので、森林管理局にその情報を使ってよいかどうかを確認していただき、使える場合(場所等は出さないこと)には、得られた情報をどこかに挿入ください。(由井委員)	白神山地周辺でのクマゲラ生息実態調査については、令和元年度に実施したところであり、また、令和2年度も実施予定としています。資料1や資料2の関係資料への記載が抜け落ちており、お詫び申し上げます。別添のとおり修正、追加します。	東北森林管理局

項目	資料	質問	回答	回答者
	資料1-2-8番号4	「パーソナル・ノンパーソナルプログラム」というのはどのようなものなのでしょうか？もうすこし詳しく教えていただけないでしょうか？（中静委員）	パーソナルプログラム：世界自然遺産センター藤里館に常駐する自然アドバイザーが直接企画実施し、講師などが介在してプログラム提供するもの。 ノンパーソナルプログラム：人が説明しなくても白神の価値、森の巡りが伝わる館内展示やセルフガイドなど。 いずれも見えるものを通じて見えないものを伝えるインタープリテーションの要素に配慮したプログラム提供を目指しています。	藤里町
3)ニホンジカへの対応状況等について	資料3-2-1 資料3-2-2	越冬地の特定はできそうですか。（蒔田委員）	（東北地方環境事務所） 令和元年度調査でニホンジカの冬期の生息場所の推測に資するデータを取得することができました。関係機関における捕獲が効率的に実施されるよう連絡会議において引き続き情報共有に努めます。 （東北森林管理局） 令和元年度の冬期に、新たな取組として、冬期間におけるニホンジカの生息域を把握することを目的に、海岸方面の低標高地域に自動撮影カメラを設置するとともに、痕跡調査を実施したところです。ニホンジカの撮影頭数は、青森・秋田県側を合わせて10頭で、また、痕跡調査では、青森県側で糞の2検体、秋田県側でチマキザサの食痕2検体とヒメアオキの食痕2検体がニホンジカによるものと判明したところです。しかし、令和元年度の冬は、特に暖冬少雪で例年の状況とは異なっていたところです。 令和2年度については、平年並みの気候におけるニホンジカの越冬場所を絞り込んでいくうえで、引き続き海岸方面の低標高地域に自動撮影カメラを設置するとともに、環境省の調査「越冬適地の解析」で抽出された越冬適地を中心に、特に緩斜面のスギ林内のササ類やヒメアオキに着目して痕跡調査を実施することで検討しています。	東北地方環境事務所 東北森林管理局
	資料3-2-1別添1	P111:GIS解析の結果は興味深いですし、今後の発展性があることだと思います。気候変化の影響なども予測できる可能性があるのではないかと思います。そのような解析は行われているのでしょうか？（中静委員）	現時点におけるニホンジカの越冬適地の解析として行ったことから、気候変動によるニホンジカの状況への影響について解析は行っていません。	東北地方環境事務所
4)遺産地域における入山利用への対応状況等の報告	資料4-2-4 資料4-3-4	秋田県側の入山についてですが、県認定ガイド講習会で核心地での研修が行われています。秋田県側の核心地についてはすぐに一般に開放（届け出制）するかどうかと言う前に、歩ける人を増やしておく必要があると思います。そのために、認定ガイドの人を中心に核心地の巡視活動等を活発化したらどうかと思いますが、現状はどうでしょうか。（蒔田委員）	県認定ガイド育成講習においては、核心地域を含む白神山地の自然環境等について理解するとともに総合的な技術力を高めることを目的として、実際に核心地域に入るカリキュラムを実施しています。これは、認定ガイドが、訪問客等に対して核心地域の自然環境について解説したり、安全に十分配慮しながらガイドを行うために必要な技術を身につけることを目指して実施しているものであり、県として核心地域をガイドする巡視員の育成を目指しているものではありませんので御理解ください。	秋田県自然保護課